

令和6年度（2024年度）学校評価報告書

令和7年（2025年）2月18日

北海道教育委員会教育長 様

北海道高等聾学校長 印

次のとおり令和6年度（2024年度）の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

(1) 重点教育目標	「学ぶ喜びを実感できる授業づくりと確かな学力の育成に努める。」
(2) 重点経営目標	「学校運営への参画意識を高くもち、質の高い教育活動と効率的な働き方を推進する。」

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校生活 集団生活	集団の力と個性を育む学校生活の充実が必要である。	集団生活にはルールが必要である。生活のあり方を生徒学生が自分たちで決めるという仕組みづくりや集団づくりを進めることが、きまりの意味や目的を生徒と共有することにつながる。生徒たちにとってはそのような経験を積み重ねることが、地域社会や職場で主体的に生きるための生活経験になるのだと思う。
改善方策	<ul style="list-style-type: none">様々な活動を通じて、他者との共生のあり方について学び、社会の一員としての自覚を育む。個別面談等を通じて、生徒の生活や学習、進路に関する相談に対応する。きまりの意味や目的を生徒と共有し、必要に応じて改善を図ると共に、対話を通じて理解を深める。	
キャリア教育	自己実現に向けたキャリア教育の充実が必要である。	高校生の段階で地域社会に関わる経験を積み重ねることが、社会人となった際の生き方につながる。町内会が主催している防災ウォークに計画段階から参画することは、高校生が地域の方や小中学生とつながるよい機会。職場体験学習では、学校が受け入れ側企業等に対して事前に伝えるべきことを整理の上、インターンシップ現場でのよりよいジョブマッチングを心掛けるとよい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none">多様な学習の機会を捉え、自己理解、コミュニケーション、問題解決、情報収集、自己肯定感の向上を図り、人生を主体的に生き、より良い社会を築く力を育む。グループ学習や個人の学習をバランスよく取り入れ、生徒・学生一人一人が自分の興味関心や個性に合わせた学びを深める。体験的な学習を効果的に活用し、将来の職業や学びに対して深く考えることに結びつけ、進路選択の幅を広げる。個別面談等を通じて、生徒・学生の将来設計をサポートし、自己決定力を高める。	
関係者 連携	保護者への情報提供の向上が必要である。	学校から保護者へのフォーマルな情報では、生徒学生の生活実態は保護者には十分には伝わらない。どのような情報を保護者に提供すべきかを、寄宿舎の指導員も学校と一緒に話し合い、問題意識を同じにして進めてほしい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none">保護者への情報提供のあり方を工夫し、学校と家庭が連携し、生徒の成長を共に支えていく。	
公表方法	<ul style="list-style-type: none">学校ホームページ等で公表	

3 添付書類

- 令和6年度 保護者による学校評価
- 令和6年度 生徒・学生による学校評価
- 令和6年度 教職員による学校評価
- 令和6年度 自己評価書